

デスクトップ配備管理者ガイド

*Sun Java™ System Connector
for Microsoft Outlook*

Version 6.0

817-6723-10
2004 年 2 月

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは米国 Sun Microsystems 社の機密情報と企業秘密を含んでいます。米国 Sun Microsystems 社の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook、Java、Solaris、JDK、Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の登録商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本マニュアルに情報が記載されている製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

このマニュアルについて	5
第1章 概要	9
Deployment Toolkit の使用目的	11
デスクトップへの配備プロセス:3つの作業	12
Deployment Toolkit のコンポーネント	13
第2章 一般的なガイドライン	15
グループ単位の段階的な移行の計画	15
総合的な配備計画の準備	16
第3章 新しいメールサーバーの計画時に解決すべき問題	17
サイトの設定とユーザーの特性の明確化	17
ユーザーのグループ化の基準と関係	18
デスクトップインストール方法	18
対話式ユーザーインストール (セルフサービス)	18
管理者によるユーザーのコンピュータでのインストールの実行	19
SMS またはその他の設定管理ツールによる自動「プッシュ」	20
デスクトップインストール用のコマンド行スイッチ	21
メッセージ以外の重要なサーバーデータの移行	21
サーバーの移行の移行期間中のメールルーティング	22
移行中のグローバルアドレス帳の同期	23
Sun Java System サーバーの新しいユーザー ID とパスワード	23
パスワードで保護された Outlook の個人用ストア	24
索引	25

このマニュアルについて

このマニュアルでは、Sun Java™ System Connector for Microsoft Outlook の配備について説明します。このマニュアルは、Sun Java System Connector Deployment Toolkit を使用する前に、配備に関する選択およびオプションについて理解していただくことを目的としています。このツールキットは、特定のユーザー向けに Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールして設定するように設定された、システム管理者用ソフトウェアツールのセットです。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [対象読者](#)
- [必要な知識](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [マニュアルの表記上の規則](#)
- [関連マニュアル](#)
- [オンラインマニュアル](#)

対象読者

このマニュアルは、それぞれの現場で Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の管理と配備を担当するユーザーを対象としています。

必要な知識

このマニュアルでは、読者が Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアの管理および配備担当者であり、次の一般的な知識を習得していると想定しています。

- インターネットおよび WWW
- Messaging Server プロトコルおよび Calendar Server プロトコル
- 次のプラットフォームでのシステム管理とネットワークング
 - Microsoft Windows 2000
 - Microsoft Windows XP
- Microsoft Outlook
- 一般的な配備アーキテクチャ

このマニュアルの構成

このマニュアルには、この「このマニュアルについて」に続いて、次の3つの章があります。

- [第1章「概要」](#)
- [第2章「一般的なガイドライン」](#)
- [第3章「新しいメールサーバーの計画時に解決すべき問題」](#)

マニュアルの表記上の規則

このマニュアルでは、ファイルとディレクトリパスは、Windows 形式で表記されます (ディレクトリまたはフォルダ名を円マークで区分)。Sun Java System の他のマニュアルを参照する場合は、UNIX の表記規則でファイルおよびディレクトリパスが表されています (ディレクトリをスラッシュで区分)。

- モノスペースフォントは、コンピュータの画面に表示されるテキストまたは入力するテキストに使用されます。また、ファイル名、識別名、関数、および例にも使用されます。
- **ボールドモノスペースフォント**は、コード例の中で入力するテキストを表します。
- *イタリック体フォント*は、インストールに特有の情報を使用して入力するテキストを表します (変数など)。これはサーバーのパスと名前に使用されます。

たとえばファイル参照は、次の形式で記述されます。

ISTOREx.LOG

この場合、*x*は曜日を示す数値になります。

イタリック体フォントは、コマンド行ユーティリティのシノプシス内の変数またはパラメータにも使用されます。たとえば、インストールパッケージは、次のコマンド行ユーティリティをサポートしています。

```
/USERNAME=xxx
```

この例では、関連するコマンドの引数がイタリック体フォントです。*xxx*は、サーバーの **UserID** を示します。

- 角カッコ [] は、オプションパラメータを囲むために使用されます。たとえば、`setup` コマンドが次のように記述されている場合があります。

```
installer [options] [arguments]
```

次のように `installer` コマンドを単独で実行して、**Messaging Server** のインストールを開始することができます。

```
setup
```

ただし、*[options]* と *[arguments]* は、`setup` コマンドに追加できるオプションのパラメータがあることを示しています。たとえば、次のように `-k` オプションを付けて `setup` コマンドを使用すると、インストールキャッシュを保持できます。

```
setup -k
```

関連マニュアル

Sun Java System 製品パッケージには、Sun Java System Messaging Server (旧称 Sun ONE™ Messaging Server)、Sun Java System Calendar Server (旧称 Sun ONE Calendar Server) などの他の製品も含まれています。これらの製品に関するマニュアルは、次の URL にあります。

- Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE Messaging Server 6.0 のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE Calendar Server 6.0 のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

オンラインマニュアル

PDF および HTML 形式の『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップ配備管理者ガイド』を、オンラインで閲覧できます。このマニュアルは、次の URL にあります。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

概要

このマニュアルは、組織のエンドユーザーへの Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の配備についてシステム管理者が理解し、計画できるように作成されています。配備元と配備先のネットワーク構成、組織の管理構造、ユーザーがデスクトップソフトウェアのインストールおよび設定プロセスに関わる度合いの認識に応じて、配備プロセスの進行は異なります。

組織で、Sun Java System Connector ソフトウェアを使用して、ユーザーが Sun Java System servers に接続しながら、電子メールおよびカレンダークライアントとして Microsoft Outlook を使用できるようにします。Outlook と Sun Java System サーバー間で継続的な通信を円滑に行うために、Connector ソフトウェアのインストールと設定は、それぞれのユーザーのデスクトップで行う必要があります。また、Sun は Desktop Deployment Toolkit を提供しています。これは、特定のユーザー向けに Sun Java System Connector ソフトウェアをインストールして設定するとき、関連する管理者の作業とユーザーの作業を単純化するように設計されたシステム管理者用のソフトウェアツールセットです。

管理者は、Desktop Deployment Toolkit を使用して、設定パラメータをあらかじめ設定し、Connector ソフトウェアのエンドユーザー向けインストールパッケージをカスタマイズできます。これにより、ユーザーのプロセスの単純化と効率化を図り、特定のユーザーまたはユーザーグループにとって必要または望ましいと考えられるすべての設定を行うことができます。配備設定プログラムでは、この事前設定した設定パラメータを .ini テキストファイルに保存し、この .ini ファイルとインストールプログラム (セットアップウィザード) をエンドユーザー用に 1 つにまとめます。エンドユーザーがパッケージを起動すると、セットアップウィザードは、.ini ファイルを読み込んで、管理者の指定に従って、ユーザーのデスクトップに Connector ソフトウェアをインストールおよび設定します。

配備を計画し、Deployment Toolkit を使ってユーザー用インストールパッケージを作成する場合、新しいソフトウェアの配布方法、ユーザーのデスクトップへのインストールと設定方法には多くの選択肢があります。選択肢の中には配備上必須なものもありますが、組織、ネットワーク、ユーザーについての個人的な知識に基づくものもあります。

このマニュアルはこれらの選択肢を事前に決定し、**Deployment Toolkit** を使用する前に、オプションの重要性と意味について理解していただくことを目的としています。このマニュアルでは、次のトピックについて説明します。

- 第1章「概要」
 - 「Deployment Toolkit の使用目的」
 - 「デスクトップへの配備プロセス:3つの作業」
 - 「Deployment Toolkit のコンポーネント」
- 第2章「一般的なガイドライン」
 - 「グループ単位の段階的な移行の計画」
 - 「総合的な配備計画の準備」
- 第3章「新しいメールサーバーの計画時に解決すべき問題」
 - 「サイトの設定とユーザーの特性の明確化」
 - 「ユーザーのグループ化の基準と関係」
 - 「デスクトップインストール方法」
 - 「対話式ユーザーインストール(セルフサービス)」
 - 「管理者によるユーザーのコンピュータでのインストールの実行」
 - 「SMS またはその他の設定管理ツールによる自動「プッシュ」」
 - 「デスクトップインストール用のコマンド行スイッチ」
 - 「メッセージ以外の重要なサーバーデータの移行」
 - 「サーバーの移行の移行期間中のメールルーティング」
 - 「移行中のグローバルアドレス帳の同期」
 - 「Sun Java System サーバーの新しいユーザー ID とパスワード」
 - 「パスワードで保護された Outlook の個人用ストア」

Deployment Toolkit の使用目的

Deployment Toolkit を使うと、管理者は、デスクトップユーザーのさまざまな設定パラメータを制御できます。多くの設定またはほとんどの設定を必須にすることで、エンドユーザーがオプションについて考え、選択し、値を設定する必要がなくなります。これらの自動または半自動インストールにより、ユーザーの選択によって予期しない結果が生じたときに発生する必然的な問題に対して、案内、サポート、および解決方法を求める企業のヘルプデスクへの問い合わせを減らすことができます。このツールキットにより、Sun Java System Connector ソフトウェアの配備に必要なコスト、時間、および労力を大幅に削減できます。

システム管理者は、デスクトップエンドユーザーのグループごとに別々のインストールパッケージを作成して、たとえば、営業部のユーザーと技術部のユーザーに対して異なる設定を実施したり、あるユーザーグループには設定オプションを与え、他のグループには固定パラメータを設定する（選択肢を排除する）こともできます。

Microsoft Exchange から移行する場合、ユーザーのインストールパッケージはユーザーデスクトップの .pst ファイルに保存されている既存の Outlook データの多くの値も維持します。また、Exchange サーバーに保存されているメモ、履歴、連絡先も維持します。バンドル版インストールパッケージには、これらすべてのデータを純粋なインターネットアドレスにすぐに変換する変換ユーティリティが含まれます。これにより Sun Java System サーバーへの移行後も、ユーザーは古いメッセージに返信でき、出席依頼を受けたユーザーは変更通知を受信し、アドレス帳、個人配布リストを引き続き使用できます。

デスクトップへの配備プロセス：3つの作業

Sun Java System Connector ソフトウェアを各ユーザーデスクトップへ配備するには、次の3つの作業が必要です。

- **インストール**：必要かつ適切なソフトウェアを Outlook ユーザーのデスクトップへ物理的にインストールする必要があります。ソフトウェアのインストールにはアクセス特権が必要になりますが、多くの場合、ほとんどのエンドユーザーには許可されていません。この場合、ほとんどの企業では、システム管理者からユーザーのデスクトップへソフトウェアを配布する「プッシュ」方式を採用しています。これにより、ユーザーのアクセス特権の必要性が回避されます。この「プッシュ」方式の配布については、以下の「[デスクトップインストール方法](#)」で詳しく説明します。エンドユーザーがソフトウェアをインストールできないように「ロックダウン」した Windows 環境で、ネットワークが使用されている場合は、それぞれのデスクトップに何度もアクセスせずに済むように、このような自動設定管理を使用することをお勧めします。
- **設定**：Sun Java System Connector は、サーバー名、ポート番号、ユーザーパスワードオプション、ディレクトリ検索デフォルト、ログファイルパスなどの設定パラメータの組み合わせでインストールされます。ユーザーまたは管理者は、各デスクトップの Outlook からこれらの設定を手動で行うことができますが、管理者がユーザーグループに対してこれらを事前設定するほうがはるかに効率的で、デスクトップに出向く必要がありません。
- **変換**：セットアップウィザードでは、Exchange ユーザーの連絡先、履歴、およびメモのデータを、ローカル (デスクトップ) の Sun Java System Connector の個人用フォルダ (.pst) ファイルに変換できます。Microsoft Exchange と Outlook に関連するこのような既存の個人データファイルは、Sun Java System サーバーおよび Connector ソフトウェアと互換性のあるデータに変換する必要があります (この作業は、Microsoft Exchange を使っていなかった新しい電子メールユーザーには適用されません)。ユーザーがデータファイルをパスワードで保護している場合は、この変換時に、保護されたファイルに関連するパスワードが必要です。変換機能はプロセッサを集中的に使用するため、ユーザーが大量のデータを変換する場合は、ユーザーのコンピュータで数十分、場合によっては数時間かかることがあります。このため、変換ユーティリティでは、大きなファイルの場合は昼休みや夜間などに行うように変換を延期することができます。

配備設定プログラムでは、特定のユーザーグループに対するシステム管理者の配備方針に応じて、エンドユーザーの作業全体または一部を自動化するインストールパッケージを作成できます。

Deployment Toolkit のコンポーネント

Sun Java System Connector Desktop Deployment Toolkit は、次のコンポーネントで構成されています。

- **配備設定プログラム**：システム管理者が、エンドユーザー用にバンドルおよびカスタマイズしたインストールパッケージを作成するために使用する Sun のツールです。これらのパッケージを使って、Sun Java System Connector ソフトウェアをインストールして設定できます。また適切な設定により、Exchange のローカルストアからデータを変換できます。
- **Sun Java System Connector セットアップウィザード**：エンドユーザーが、Sun Java System Connector ソフトウェアをインストールして、管理者の設定を基に操作や機能を設定し、Exchange に関連する既存の Outlook データファイル (.pst ファイル) を Sun Java System Connector で使用できる形式に変換するために使用する Sun のツールです (セットアップウィザードは、前述のように配備設定プログラムによって作成されるバンドル版エンドユーザーインストールパッケージの一部です)。
- **Sun が提供する Sun Java System Connector 用インストールキット (MSI)**：Microsoft Outlook 機能と Sun Java System サーバーの間で継続した永続的な通信を円滑に行うために Sun が提供するソフトウェア用インストールユーティリティです。これは Sun からのパッケージの一部として提供されます。
- **Microsoft System Management Services (SMS) を使用して Sun Java System Connector をインストールするための特別キット**：Microsoft の SMS の「プッシュ」機能をサポートする Sun のユーティリティです。システム管理者は、ユーザーの操作を最小限にするか、またはまったく必要としないで、Sun Java System Connector デスクトップコンポーネントをユーザーデスクトップへ配布してインストールできます。この「プッシュ」方式の配布については、次の「[デスクトップインストール方法](#)」で説明します。

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールするには、前述の Deployment Toolkit のコンポーネントの他に、他のベンダーから提供されている次のアイテムが必要になる場合があります。

- **Web 発行ウィザード (WPW) 用の Microsoft インストールプログラム** Microsoft の WPW は、(通常は Web ブラウザに表示される Web ページの形式で) HTML コード化文書を生成するために使用されるツールです。ただし、WPW は他の目的で情報を「公開」するためにも使用されます。たとえば、特定の形式のデータを含む文書を作成し、他のアプリケーションが検索して関連データを引き出せる場所に文書をアップロードするために使用されます。Sun Java System Connector で

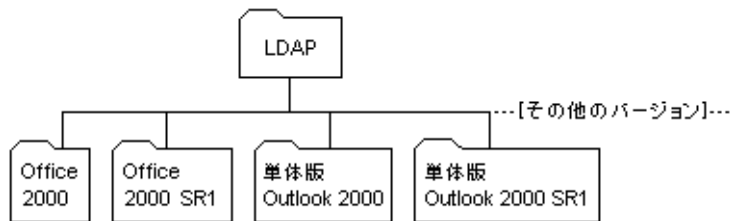
は、WPW をこのように使って、Outlook と Sun Java System server 間でユーザーの空き時間のデータの転送を容易にします。したがって WPW は必要な媒介であり、Sun Java System Connector の各ユーザーのインストールに必須のコンポーネントです。

注 ただし、WPW は Deployment Toolkit パッケージには含まれていません。Web 発行ウィザードは Microsoft 製品なので、Microsoft から入手する必要があります。Microsoft の WPW のインストールプログラムは、<http://www.microsoft.com> から無料でダウンロードできます。

- Outlook 用の Microsoft インストールキット (MSI) (一部のユーザーが Outlook 2000 を使用している場合のみ必要、すべてのユーザーが Outlook 2002 を使用している場合は不要): Sun Java System Connector は、LDAP サービスを使って Sun Java System ディレクトリと通信します。LDAP プロトコルは、Outlook 2002 の標準機能です。LDAP プロトコルは、Outlook 2000 ではあくまでもオプション機能で、Microsoft Office の「標準」インストールの一部ではありません。Outlook 2000 を使用しているユーザーが 1 人でもいる場合は、LDAP コンポーネントをインストールするために、対応する元のインストール CD またはインストールファイルが必要です。これらのキットは、Microsoft 製品なので、Sun の Deployment Toolkit パッケージには含まれていません。

これらの CD をネットワークの共有フォルダのディレクトリ構造にコピーして、各ユーザーが Outlook または Office の CD を使用することなく、セットアップウィザードから LDAP をインストールできるようにします。図 1-1 に示すように、ファイルがまったく含まれない最上位ディレクトリを作成する必要があります。そのディレクトリの下に、ユーザーが使っている Outlook または Office のバージョンごとにサブディレクトリを作成して、そこにインストールキットをコピーします。

図 1-1 推奨する LDAP ソースファイルのディレクトリ構造



一般的なガイドライン

移行の規模が少数のユーザーのみに限定される場合を除き、グループ単位の段階的な移行を計画し、移行方針を明確に示す総合的な配備計画を準備することを強くお勧めします。

グループ単位の段階的な移行の計画

小規模の会社では、1回の週末イベント(移行イベント)ですべてのユーザーを新しいサーバーに移行できますが、ほとんどの中規模および大規模の会社では、「バッチ」で移行を実行する必要があります。

シームレスな移行であっても一部のユーザーから企業のヘルプデスクに問い合わせがあります。ヘルプスタッフはこれらの問い合わせが数日間に分散され、1日に処理する件数がごく少数になることを望むでしょう。サブグループ単位でユーザーを段階的に移行すると、ヘルプデスクへの負担がかなり分散されます。

さらに、組織の業務上の理由で、すべてのユーザーを1回の移行イベントにスケジュールしないほうがよい場合もあります。たとえば、財務および経理スタッフは、帳簿を閉めようとしている月初めに作業の中断を許すことはできません。同様に、販売スタッフは、目標に向けて努力している期末近くに作業を中断することはできません。また、マーケティングスタッフは、重要な展示会などのプログラムの近くに邪魔されるの避ける必要があります。ユーザーを段階的に移行すると、これらの正当な業務上のニーズに柔軟に対応できます。

多くの組織では、情報サービススタッフを移行する最初のグループとして指定します。通常、情報サービススタッフは最も高い技術を持っているため、移行方法と新しいシステムの確実なテストになるからです。

配備設定プログラムでは、ユーザーのインストールプロセスをユーザーグループごとに設定することに留意してください。管理者はユーザーのインストールを少なくとも消極的に監視する必要があるかもしれませんが、一定の資質と設定パラメータを共有するユーザーグループごとに行うと、これは非常に容易になります。

総合的な配備計画の準備

総合的な配備計画の作成プロセスは、組織の移行に影響を与える可能性のあるすべての要素を考慮して調整する必要のある大切な作業です。配備の途中では、細部を軽視したために組織でユーザーの生産性を数百時間も失ったり、ユーザーを不要に不快にってしまったことに気が付く時間はありません。

配備計画は内部文書になるため、漠然とした専門用語や頭字語を好きなだけ使用できます。ただし、少なくともこのマニュアルの第3章「新しいメールサーバーの計画時に解決すべき問題」に示された問題をすべて考慮する必要があります。メッセージの移行に熟練したプロフェッショナルサービスを契約すると、非常に役に立ちます。

新しいメールサーバーの計画時に解決すべき問題

この節では、各移行プロジェクトの計画時に解決すべきトピックについて説明します。

サイトの設定とユーザーの特性の明確化

すべてのユーザーが物理的、地理的に1つの場所、つまり、1つのビルの中にいますか？全員が同じ階にいますか？同じ部屋にいますか？あるいは、セントルイスに本社があり、タンジール、バルセロナ、オシュコシュに支社があり、シンガポールとタスカルーサに工場がありますか？現在の電子メールシステムで、各ロケーションに Exchange サーバーとユーザーの数はどれだけありますか？移行後に、何台の Sun Java System サーバーが各ロケーションのユーザーにサービスを提供しますか？

現在の電子メールシステムで、ユーザーはさまざまな Exchange サーバーにどのように割り当てられていますか？地理的に割り当てられているだけですか？たとえば、販売部門、技術部門、カスタマサービス部門など組織内の管理エンティティ別に割り当てられていますか？あるいは、製品 XYZ チーム、製品 ABC チームなど、業務の単位やチーム別に割り当てられていますか？

それぞれのユーザーの教育と研修のバックグラウンドは？ユーザーのコンピュータの使用年数は？移行中にユーザーは管理者やヘルプデスクの「支援」をどの程度必要としますか？

ユーザーのグループ化の基準と関係

ユーザーを一度に移行するときの最適な人数を決定します。最適な移行グループサイズは、サーバー上にあるユーザーのデータ量である程度決まります。移行グループサイズは、ヘルプデスクの規模と対応能力に関連付ける必要があります。これは、少なくともある程度の割合のユーザーがヘルプデスクに支援を求めることが想定されるからです。

最初のいくつかの移行グループは、予想した最適なサイズよりも小さくする必要があります。これらの最初のグループでは、大きなグループで人数に相当してより大きな問題が発生する前に、マニュアルや通信計画などに関する予定外の問題が発生する可能性があるからです。最初のいくつかの小さな移行グループによって、後で大きなグループを移行するときのヘルプデスクに対する需要を予測することもできます。

結局、通常は、ビジネス機能、管理上のエンティティまたは近似によって関係する、論理グループでユーザーを移行すると便利です。これにより、移行プロセスを通してユーザーが互いにサポートできます。

デスクトップインストール方法

Sun Java System Connector Deployment Toolkit には、さまざまなツールが含まれており、これらのツールの操作オプションには、ほとんどの環境、状況、および管理者の選択に適した移行方針を作成および実行するための幅広い柔軟性があります。次のトピックスでは、最も一般的な事例と、その事例に Sun の移行ツールがどのように適応するかを説明します。

対話式ユーザーインストール (セルフサービス)

Sun Java System Connector セットアップウィザードは、エンドユーザーが自分自身で簡単に実行できるように設計されています。このセットアップウィザードはファイルサーバーにおくことができ、エンドユーザーのワークステーションに個別にインストールする必要はありません。ただし、ユーザーのデスクトップに Java System Connector ソフトウェアを物理的にインストールするには、アクセス特権が必要になりますが、これは多くの場合、ほとんどのエンドユーザーには許可されていません。エンドユーザーが自分のデスクトップに対するインストール権限を持っていない場合、次のどちらかの方針を選択します。

- 各ユーザーのワークステーションに出向き、自分の管理者特権でユーザーのデスクトップにソフトウェアを物理的にインストールする
- Microsoft SMS などの設定管理ツールを使って、ソフトウェアを複数のユーザーのデスクトップへ「プッシュ」する (以下の「SMS またはその他の設定管理ツールによる自動「プッシュ」」を参照)

ユーザーのデスクトップにソフトウェアを物理的にコピーした後、ユーザーはセットアップウィザードを実行してソフトウェアを設定し、既存の個人用フォルダ (.pst) ファイルを変換することができます。

変換プログラムを実行するエンドユーザーは、Sun Java System サーバーにユーザー自身の資格情報を提供します。したがって、この方法では、パスワードで保護された .pst ファイル(「[パスワードで保護された Outlook の個人用ストア](#)」を参照)を変換することができ、ユーザーは新しい Sun Java System Connector ソフトウェアで使用するために変換する個人用ストアを指定できます(ユーザーは変換されていない電子メールメッセージを読むことはできますが、新しいサーバーは変換されていないアドレスを認識できないため、返信することはできません。非常に古い個人用ストアがあり、将来返信する可能性がほとんどないような場合、ユーザーはそれらのファイルを変換しないように選択することもできます。変換はバックグラウンドで行われ、ユーザーはコンピュータで他の作業を行えますが、このプロセスによって他のアプリケーションのパフォーマンスが低下する可能性があります)。

対話式ユーザーインストールの大きな欠点は次のとおりです。

- 組織のヘルプデスクに対するサポート要求の増加。これはユーザーの技術スキルと移行「前」と「後」のネットワーク設定の複雑さに応じて、かなりの量になる可能性がある
- 管理者の時間と労力の問題。この作業を実行する権限のないユーザーのデスクトップへソフトウェアを物理的にコピーするために、複数のユーザーのワークステーションを飛び回る必要がある

管理者によるユーザーのコンピュータでのインストールの実行

前述のように、一部のユーザーに「セルフサービス」でインストールさせ、別のデスクトップで全体または一部のインストールを実行し、設定作業を行う管理者を割り当てたい場合があります。この方法では、自分自身の移行作業の準備が不足している管理職や技術力のあまりないユーザーの移行を円滑に行えます。配備計画で、このような管理者による直接のサポートが保証されるのは、組織のすべてのユーザーなのか、特定のユーザーなのかを明確にする必要があります。

SMS またはその他の設定管理ツールによる自動「プッシュ」

ユーザーデスクトップへのソフトウェアのインストールにはアクセス特権が必要になりますが、多くの場合、ほとんどのエンドユーザーには許可されていません。そういったネットワークのほとんどの管理者は、Microsoft SMS などの設定管理ツールを使って、ソフトウェアを複数のユーザーデスクトップへ「プッシュ」します。これにより、ユーザーのアクセス特権の必要性が回避されます。エンドユーザーがソフトウェアをインストールできないように「ロックダウン」した Windows 環境にネットワークからサービスが提供されている場合は、このような自動設定管理によって、管理者はそれぞれのユーザーデスクトップに何度も足を運ばないで済みます。

「プッシュ」方式の配布を実現するには、配備設定プログラムを使って、ユーザーごとに2種類のバンドル版インストールパッケージを作成します。これらのパッケージは続けて実行されます。1番目のパッケージでは、必要な Sun Java System ソフトウェアの「プッシュ」インストールを実行します。2番目のパッケージでは、対話式プロセスを実行します。このプロセスで、ユーザーはインストールするソフトウェアと既存のデータファイルの変換に関するオプションを選択できます。この「プッシュ」方式を使ってエンドユーザーの変換プロセスを自動化することもできますが、パッケージは、ユーザーの Sun Java System 資格情報など、各エンドユーザーに固有の情報をを使って起動する必要があるため、スクリプトが必要になります。

『デスクトップ配備設定プログラムリファレンス』では、Microsoft SMS を使ってこの「プッシュ」方式のソフトウェアの配布を実行する方法を説明しています。このリファレンスでは、SMS スクリプトでコマンド行スイッチを使用して、個人用フォルダ (.pst) ファイルに必要なユーザーのパスワードをデスクトップインストールプログラムに渡して、プロセスを完全に自動化する方法についても説明しています。

デスクトップインストール用のコマンド行スイッチ

Sun Java System Connector セットアップウィザードは、コマンド行スイッチをサポートしており、前述の他のデスクトップインストール方法や SMS スクリプトと組み合わせて使用できます。SMS スクリプトの使い方は、『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップ配備設定プログラムリファレンス』の「特殊な環境に関するアプリケーションノート」で説明しています。

インストールパッケージでは、次のコマンド行スイッチをサポートしています。

```
/USERNAME=xxx (xxx は、Sun サーバーのユーザー名)
/PASSWORD=xxx (xxx は、Sun サーバー上のパスワード)
/FULLNAME=xxx (xxx は、ユーザーの表示名)
/EMAILADDRESS=xxx (xxx は、ユーザーの電子メールアドレス)
/DN=xxx (xxx は、Sun サーバーのユーザー DN)
/NEWPROFILENAME=xxx (xxx は、作成したプロファイルの名前)
/SAVEPASSWORD=n (n = 1 (保存する) または 0 (保存しない))
```

次のスイッチは、Exchange プロファイルを変換する場合に役に立ちます。

```
/OLDDOMAIN=xxx (xxx は、Exchange ドメイン)
/OLDUSERNAME=xxx (xxx は、Exchange ユーザー名)
/OLDPASSWORD=xxx (xxx は、Exchange パスワード)
```

メッセージ以外の重要なサーバーデータの移行

古いサーバーにはユーザーに関する貴重な情報が含まれています。効果的な移行では、この情報を引き出して、新しい Sun Java System サーバーのユーザーアカウントを提供します。ユーザーの古いメールメッセージの他に、古いサーバーにはユーザーのカレンダー、仕事、個人アドレス帳、連絡先があります。またこの古いサーバーには、ユーザー名、プライマリインターネットアドレス、インターネットエリアス、電話番号、住所、さらにユーザーの所属部署、役職などの説明情報や企業のすべての公開配布リストも含まれています。

サーバーデータの移行の詳細説明は、このマニュアルの範囲を超えていますが、古いサーバーは、Sun Java System 上のユーザープロビジョニングやメールルーティングの変更に関与する貴重なデータリソースであることを理解する必要があります。Sun のプロフェッショナルサービスは、配備計画でサーバーデータの移行を理解して調整するときに役立ちます。また、サードパーティーでもサーバーデータの移行を支援する技術とコンサルティングの専門家を用意しています。

サーバーの移行の移行期間中のメールルーティング

すべてのユーザーが同時に古いサーバーから新しいサーバーへ移行するわけではありません。ユーザーの実際の移行の前に新しいサーバーのユーザーアカウントが作成され、提供されます。このため、移行期間中は同じアドレスのユーザーメールボックスが古いサーバーと新しいサーバーの両方に同時に存在します。したがって、一時的なメール転送規則を定義して、ユーザーのメールが移行期間中に正しくルーティングされるようにする必要があります。

組織で新しいインターネットアドレスを導入する場合でも、古いアドレスを古いサーバー上に保持する必要があります。これはユーザーの古いプライマリインターネットアドレスが正しいサーバーに引き続き配信される場合にも、古いメッセージへの返信が配信可能になるためです。特定のドメインに対するすべてのインターネットメールは、関連する MX レコードで指定された単一のサーバーへ配信される必要があるため、新しい Sun Java System サーバーを指定するようにその MX レコードを更新する時期を組織で決定する必要があります。

移行期間の初めに MX レコードが Sun Java System サーバーに切り替えられる場合は、ローカルメールボックスに配信できないすべてのメールが、古いサーバー上の対応するメールボックスに送信されるように、Sun Java System サーバーを設定する必要があります。さらに、Sun Java System サーバー上に新しいユーザーのプロビジョンがあるたびに、本来は新しいメールボックスに配信されるすべてのメールが古いサーバー上の対応するユーザーメールボックスに転送されるように、新しいサーバーで転送規則を定義する必要があります。各ユーザーが新しいサーバーへ移行するたびに、新しいサーバーの最初の転送規則を削除し、すべてのユーザーのメールを対応する Sun Java System のメールボックスへ転送するように、古いサーバーで新しい規則を定義する必要があります。

一方、移行期間の最後まで MX レコードで古いサーバーを指定する場合は、ローカルで配信できないメールを Sun Java System サーバー上の対応するユーザーメールボックスに送信するように、古いサーバーを設定する必要があります。ユーザーが新しいサーバーへ移行するたびに、古いサーバーの他のユーザーから送信されたメールを Sun Java System サーバー上のユーザーの新しいアカウントに転送するように、古いサーバーで新しい規則を定義する必要があります。

移行中のグローバルアドレス帳の同期

大きな組織では、段階的移行を完了するのに数週間または数か月も必要になる可能性があります。また、移行中は一部のユーザーが2つのシステムに同時に存在します。多くの組織では、すべてのユーザーが正確な企業ディレクトリ（個人電話帳、グローバルアドレス帳）へのアクセスを維持することが好まれますが、これを正確にするためには、従業員の雇用、異動、解雇のたびに2つのサーバーのディレクトリを定期的に同期する必要があります。したがって、配備計画では移行期間にわたって2つのディレクトリを定期的に同期するためのメカニズムを指定する必要があります。

Sunのプロフェッショナルサービスはこの問題を解決するための支援をします。またディレクトリの同期を実行するために利用できる製品もいくつかあります。

Sun Java System サーバーの新しいユーザー ID とパスワード

ほとんどのネットワークシステムは、ユーザーパスワードを発見できないように設計されています。これは特に Microsoft Exchange に当てはまります。これらのセキュリティ保護により、古いサーバーから新しいサーバーへ移行するときにユーザーの既存パスワードを自動的に保持することは不可能になります。

一方、多くの組織では、Sun Java System への移行中に、インターネットアドレスの形式を標準化するか、ドメインを結合することが好まれます。したがって、組織はアカウント名とインターネットアドレスの派生方法とユーザーの新しいパスワードの割り当て方法を事前に決定する必要があります。

また、ネットワーク管理者は、これらのユーザー資格情報をユーザーとヘルプデスクの両方に伝達する方法を工夫する必要もあります。一般的な方法の1つは、グループの移行の前に電子メールのマージを準備して、移行するグループの各メンバーがそれぞれ、新しいサーバーへのグループの最初のログインに間に合うように、自分の資格情報を受け取るようにすることです。

パスワードで保護された Outlook の個人用ストア

Outlook ユーザーはパスワードを個人用フォルダ (.pst) ファイルに割り当てることができますが、Sun Java System Connector セットアップウィザードでは、新しい Connector ソフトウェアと Sun Java System サーバーで使用できるように変換するために、これらのファイルを開いて変更する必要があります。したがって、エンドユーザーは変換したいすべての .pst ファイルに対してパスワードを入力する必要があります。

セットアップウィザードでは、必要に応じて必要なパスワードを自動的にユーザーに求めますが、これは明らかにユーザーの操作が必要になり、サイレントモードのセットアップは不可能になります。セットアップウィザードをサイレントモードで実行する場合は、変換中にすべてのパスワードを削除するか、適切なパスワードを入力してウィザードを実行するようにユーザーに指示することができます。セットアップウィザードをサイレントモードで実行しているときにパスワードで保護されたファイルが検出されると、ファイルは変換されず、すべてのファイルが変換されなかったことが報告されます。管理者の配備設定ツールの設定により、セットアップウィザードはエラーとしてイベントをログに記録することもできます。

索引

D

Deployment Toolkit, 11

I

ini ファイル、デスクトップインストールパッケージ, 9

L

LDAP サービス, 14

M

Microsoft Web 発行ウィザード, 14

MX レコード, 22

S

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook, 9

Sun Java System サーバーのユーザー資格情報, 23

い

移行中のメールルーティング, 22

移行ユーザーグループ, 11

か

管理者用ソフトウェア, 9, 11, 13, 18

こ

個人用フォルダ (.pst) ファイル, 24

パスワード, 20, 24

このマニュアルで使用する表記上の規則, 6

さ

サーバーデータ, 21

サイレントユーザーインストールと対話式ユーザーインストール, 11, 18, 24

せ

設定, 12

セットアップウィザード, 9, 13, 18, 21, 24

て

ディレクトリの同期, 23

デスクトップインストールの方法、方針, 18

は

配備計画, 16

配備設定プログラム, 12, 13, 15, 20

ふ

プッシュ方式のソフトウェア配備, 12, 13, 18, 20

フリー / ビジースケジュール, 14

へ

変換しないユーザーデータ, 19

ゆ

ユーザーインストールプログラムのコマンド行ス
イッチ, 20, 21

ユーザーグループの移行, 15, 18

ユーザーデータの変換, 11, 12, 19, 21

ユーザーデスクトップへのインストール, 12, 13

ユーザーのインストール権限, 18

ユーザーのインストール特権, 12, 20

ユーザーのインストールパッケージ, 9, 13